

単元名 たすのかな ひくのかな

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 加減計算の場面の違いを理解し、場面に即して適切に加減の演算を決定し、計算することができる。
 (2) 加減計算の意味を基に演算決定し、その根拠を言葉や図などを用いて考え、説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み、何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

01040304_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 加法か減法かを考えて式を立て、その訳を言う。[p. 148・p. 149] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしざんかひきざんかをかんがえ、そのしきになるわけをいしましょう。 ○ 問題文を式に表し、計算する。 ○ たし算になる訳を言う。 ○ 問題文を式に表し、計算する。 ○ ひき算になる訳を言う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	・ 問題の場面をつかむ時間を確保し、加法か減法かを児童が考えるようにする。 ・ 教科書の吹き出しの言い方を示し、説明の仕方に慣れさせる。 ・ 説明を言うことが難しい児童には、教科書の吹き出しの言い方を参考にさせる。 【評】 加法か減法かを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、問題の文章を読んで演算を決定することと、その訳を説明することを学習する。演算決定の学習では、加法か減法かを考える際に、加法や減法の意味を考えることができるように授業を構成することが大切である。